

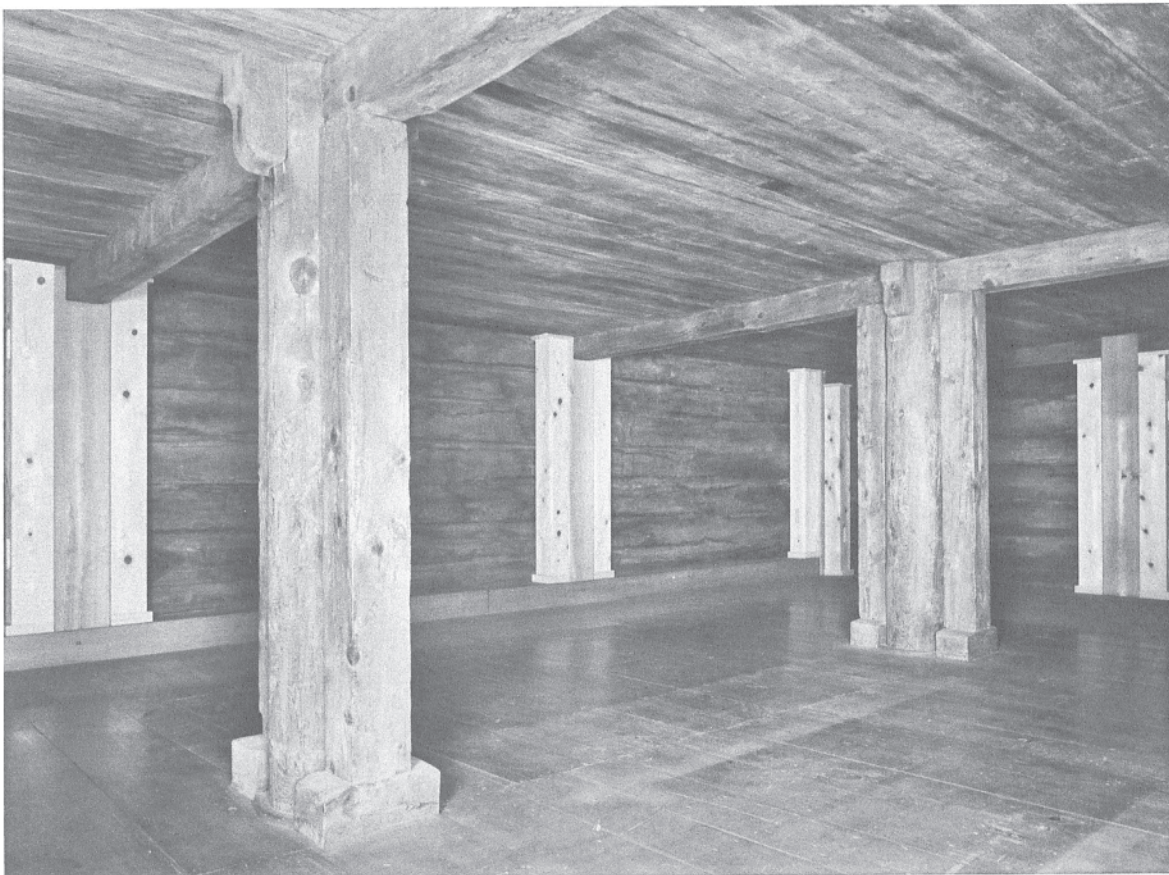
139 敷桁補強後の南倉二階東面及び北面
西南より見る。中倉との間には補強は入れず、桔木枕がある側廻りのみ敷桁受け材を入れて補強した。



140 敷桁補強後の南倉二階西面
東北より見る。敷桁下に受け材を渡し、大正期に取り替えた内部柱両脇にさらに支持柱を添えて支えた。



141 敷桁補強後の北倉一階北面
南より見る。南倉同様、敷桁を受けるため、二階に柱を添わせただので、一階にもその柱を支持するため、大正期の内部柱に支持柱を添わせた。



142 敷桁補強後の北倉一階西面
東南より見る。



143 敷桁補強後の北倉二階南面及び東面
西北より見る。中倉との境となる南面には支持柱など補加していない。



144 敷桁補強後の北倉二階北面及び西面
東南より見る。取り替えた小屋裏の補強金具も見える。



145 南倉での敷桁補強の詳細
南倉南面西端間を北より見たところ。



146 北倉での敷桁補強の詳細
北倉西面北端間を東より見たところ。



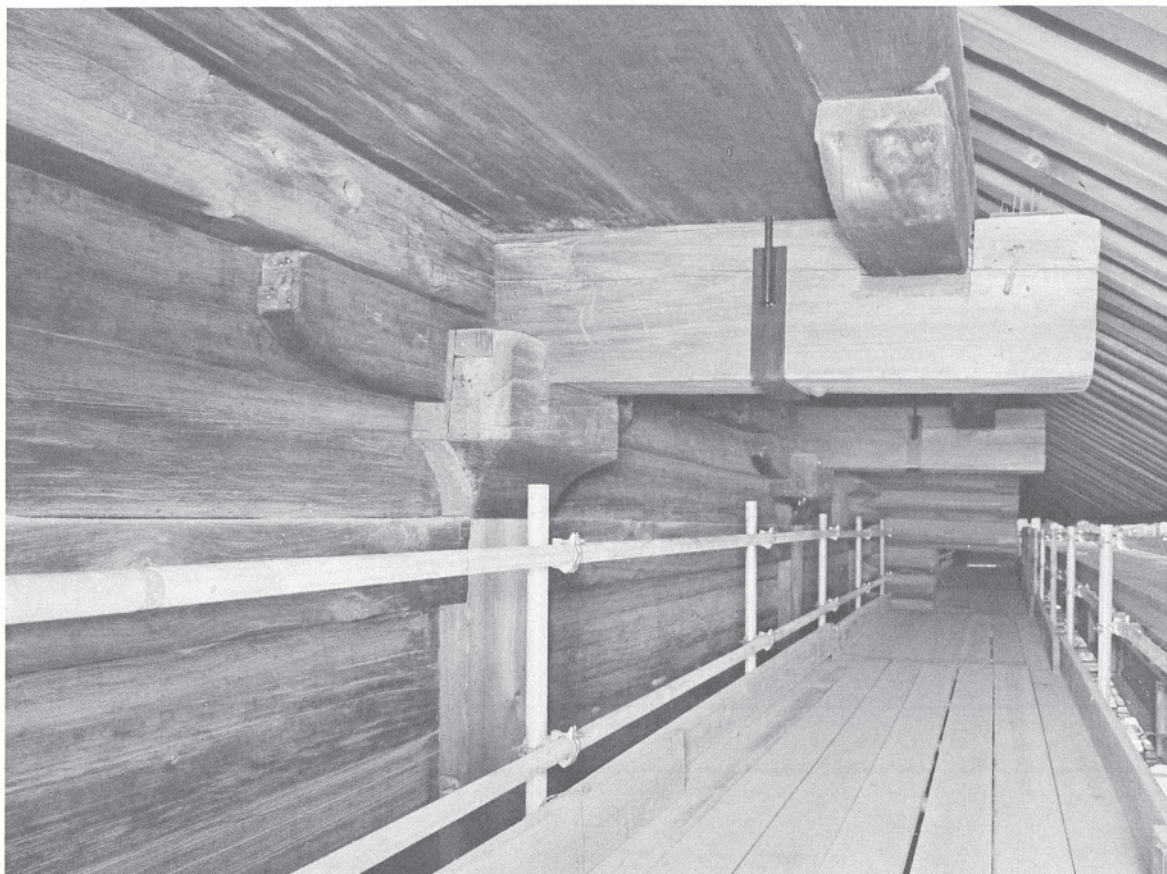
147 南倉東面南側の大梁先端

北より見る。校木と大梁の天端は平側では一致する。大梁天端に軒天井板が載り、軒天井板の下端は丸桁下端と揃う。大梁には舟肘木が載り丸桁を支えるが、丸桁は舟肘木の上部と一体になり一部を造出している。



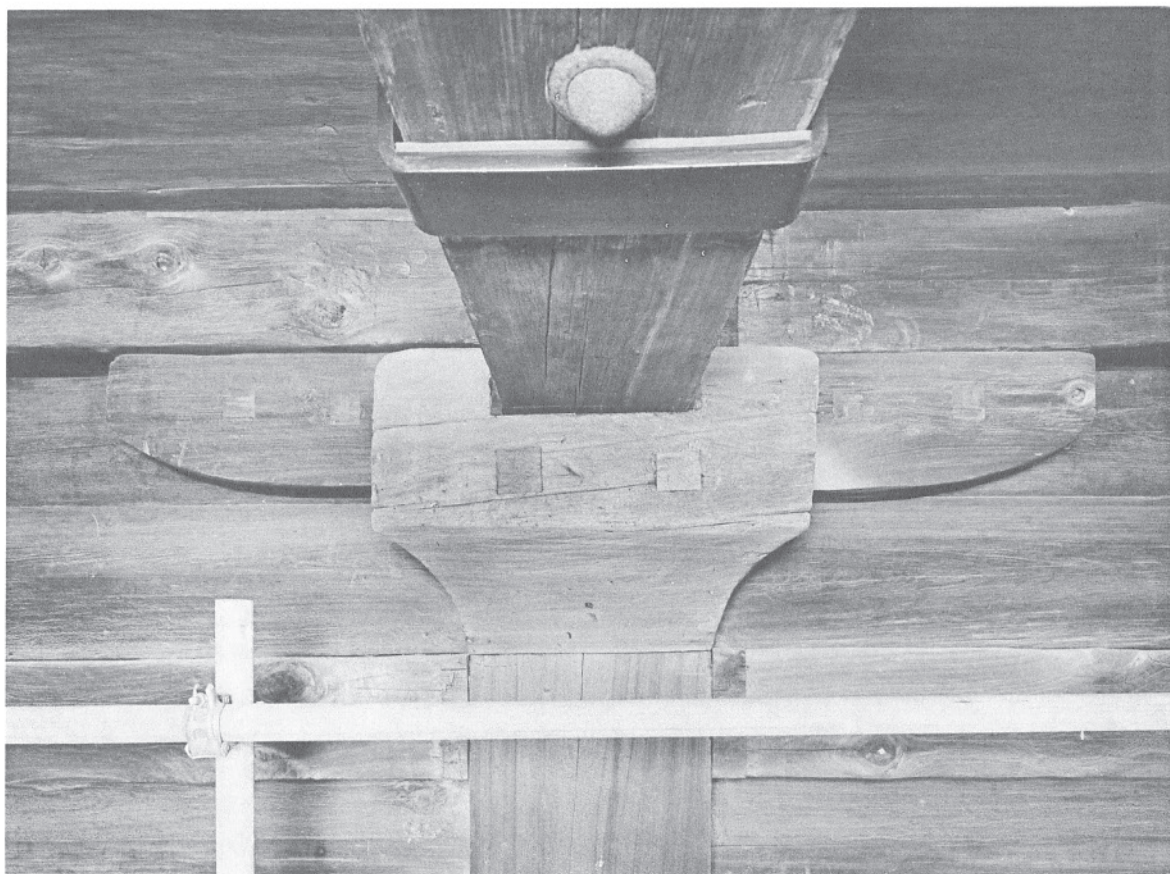
148 南倉南面西側の妻梁先端

東より見る。妻側は校木と妻梁の天端が校木成の半分ずれるため校木上に飼木がはまる。妻梁は大梁とともに今回の修理で带状金物を付けて補強した。



149 中倉西面北側の大梁先端

北より見る。大正修理で大梁の舟肘木との仕口が調整されている。中央は板倉となるため、柱を立て、肘木を載せ、大梁を受けている。大梁は今回の修理で带状金物で補強した。



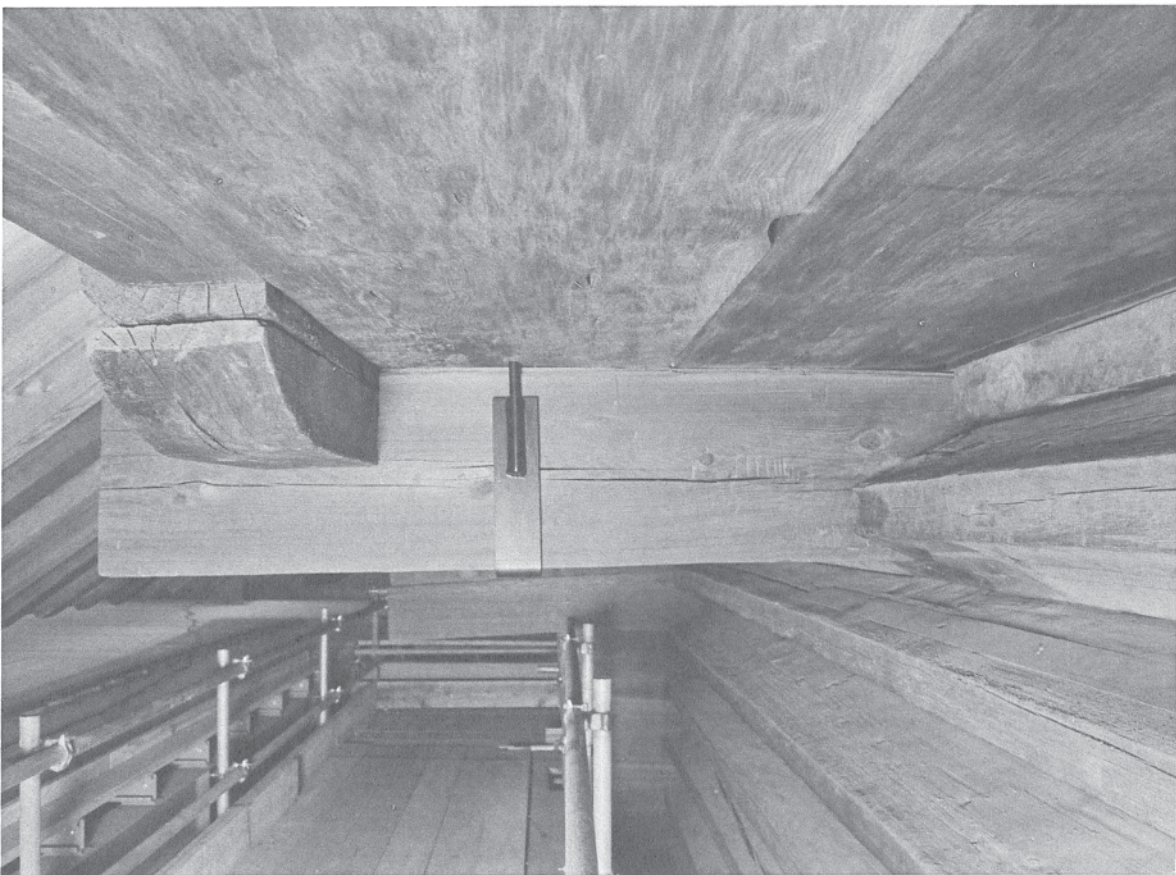
150 中倉西面北側の大斗と肘木の詳細

西より見る。大斗も肘木も規則的な埋木がされていた。



151 北倉西面南側の三段校木詳細

北より見る。校木が延びて丸桁を支えるが、荷重により垂下しており、飼物をかませて高さを修正していた。今回の工事では、特に補強はしなかった。



152 北倉北面東側の妻梁先端

西より見る。北面は舟肘木の成が低く、丸桁は舟肘木の上端を造出し、見え掛かりの成を揃えていた。